

行政評価委員会・市民参加ワークショップの役割と位置づけ

行政評価委員会について

市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の附属機関で、市役所外部の専門家から構成されています。

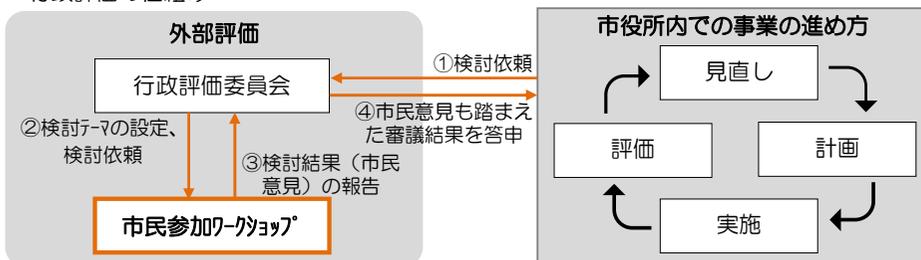
札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について審議し、多様な観点の確保のため実施しております。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、**市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマについて、市民の方々からご意見をお聞きするために実施するものです。**

市民ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用されます。

■行政評価の仕組み



行政評価 市民参加ワークショップにおける検討テーマ選定理由

昨今、少子高齢化などの理由から、様々な業種で労働力の不足が顕在化しつつあります。そのような中、女性の就業など社会における女性活躍への期待が高まっています。

札幌市は人口に占める女性の比率が高いまちですが、働く女性の比率は全国と比べて低くとどまっています。一方で、結婚等を理由に離職する女性が多く、現在仕事をしていない女性の就業希望の割合は高い状況となっています。

以上を踏まえると、男女共同参画社会※を推進するという観点から、また、活力ある札幌を維持していくためには、就業においても、女性がより活躍できる環境を整えていく必要があります。

これらを踏まえ、札幌市行政評価委員会では、市民ワークショップで検討いただくテーマとして「**子育てと仕事の両立ができる社会～女性がより活躍できる札幌を目指して**」を設定いたしました。

（※男女共同参画社会：性別に関わりなく人権を尊重し合い、責任を分かち合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、誰もがその利益を均等に享受することができる社会）

市民参加ワークショップについて

ご検討いただくこと

検討テーマ「**子育てと仕事の両立ができる社会～女性がより活躍できる札幌を目指して**」に則り、次のことについてご意見をいただきたいと思っております。

◇ 第1回ワークショップ（8月24日〔土〕）：

女性がより活躍できる社会に必要なこととは？
～「女性の活躍」を妨げている課題を出し合おう！

◇ 第2回ワークショップ（9月8日〔日〕）：

女性がより活躍できる社会の実現に向けて、市民・企業・行政はどのような取組を行うべきか
～課題を解決する取組のアイデアを出し合おう！

第1回ワークショップまでお願いしたいこと

重要！

1. 本説明資料をよくお読みください

ワークショップでは、説明や質疑応答の時間はなるべく短くして、皆様からご意見・アイデアをいただく時間を長くとりたいと考えています。そのため**お送りした資料を事前によくお読み頂きますようお願いいたします。**

2. 「事前質問票」をお送りください

お送りした資料等をお読みになり、検討テーマや札幌市の取組、行政評価、ワークショップについて**何かご質問・疑問点があれば、同封の事前質問票にて8月21日（水）までにお寄せください。**第1回ワークショップにて回答申し上げます。

なお、第1回ワークショップでもご質問の機会は設けますが、話し合いの時間を長く取るため、**ご質問はなるべく事前質問票にてお寄せください**ますようお願いいたします。

3. ワークショップテーマについてお考えください

ワークショップがより活発に行われるよう、第1回ワークショップの検討テーマ「**女性がより活躍できる社会に必要なこととは？**」について、考えておいていただければと思います。特に「**『女性の活躍』を妨げている課題としてどのようなことがあるのか**」について、当日ご意見を伺えれば幸いです。事前質問票でお送りいただく必要はございません。

ワークショップの進め方

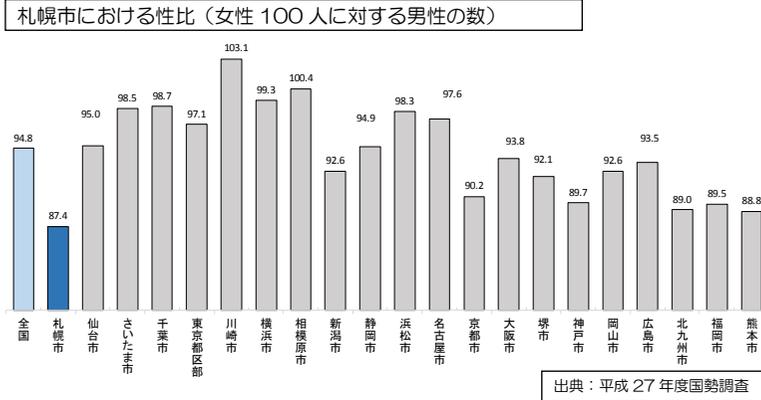
- ご参加の皆様には 5～6 名程度のグループに分かれていただき、専門のテーブルファシリテーター（司会者）の司会・進行により、話し合いを行っていただきます。
- 模造紙やふせん、シールなどを使った作業を通じて、気軽な雰囲気の中、話し合いを進めていきたいと考えています。

検討テーマに関連するデータを集めました。
 こういった状況を把握しつつ、ご意見をいただければと思います！

札幌市の女性を取り巻く状況

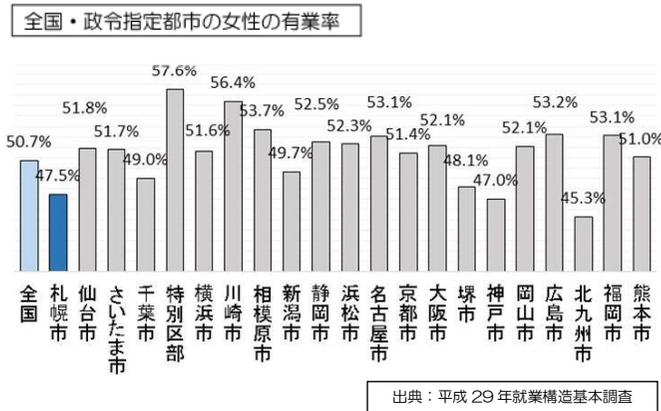
札幌市は女性の比率が高いまち

- 札幌市の全人口に占める女性人口の割合は、全国平均を大きく上回っており、政令指定都市21都市中でも最も高くなっています。
- (※グラフは「女性100人に対する男性の数」を示しているため、逆に、低くなっています)



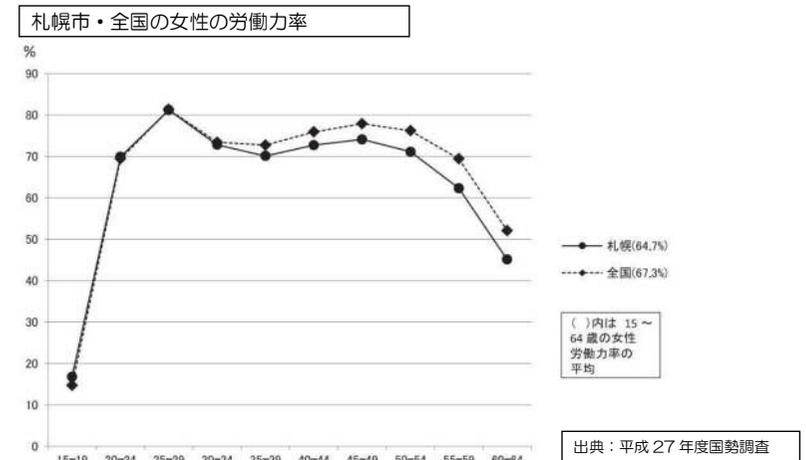
札幌市の女性の有業率は低い

- 一方、女性の有業率※は全国平均より低く、政令指定都市中でも下から3番めの低さです。
- (※有業率：15歳以上の者に占める有業者の割合)

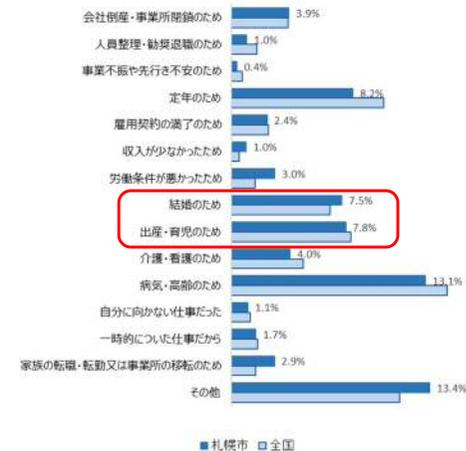


札幌市では結婚・出産を期に退職する女性が多く、復職する女性が少ない

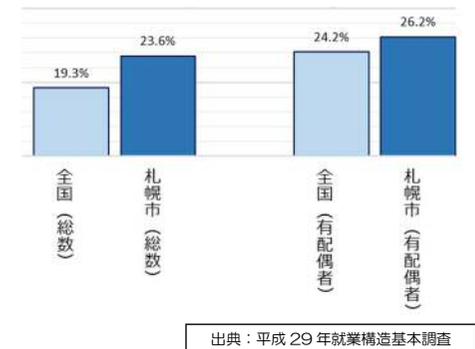
- 女性の労働力率※は、結婚・出産期に当たる年代にいったん低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するというM字カーブを描きます。札幌市は全国と比較して、M字カーブの落ち込みが大きい。すなわち、結婚・出産を期に退職する女性が多く、復職する女性が少ないです。
- 「札幌市の女性の就業意欲は低いのか」というと、そのようなことはなく、「女性無業者の就業希望比率」は全国よりも高くなっています。
- (※労働力率：人口に対する「就業者数+仕事を探していた人の人数」の割合)



札幌市・全国の女性無業者の離職理由

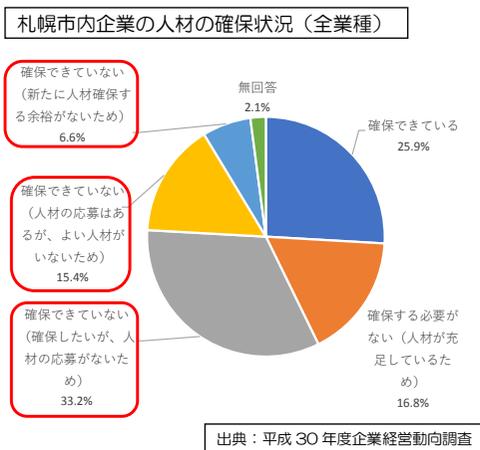


札幌市・全国の女性無業者の就業希望比率



札幌市内企業は人材難

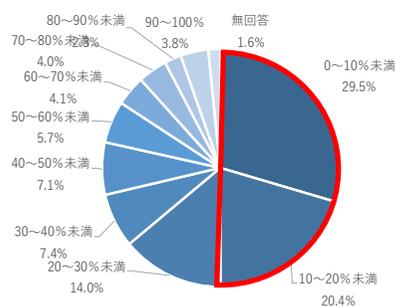
- ・約6割の企業が「人材を確保できていない」と回答しています。



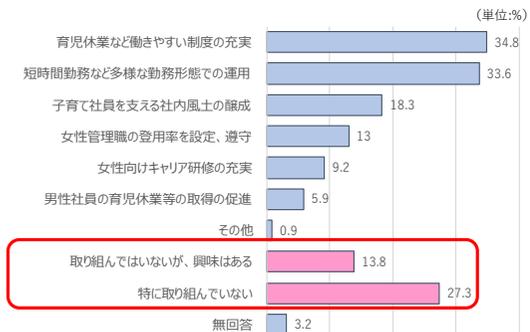
札幌市内企業の女性従業員の割合は低く、女性活躍に関する取組への意向も低い

- ・「人材を確保できていない」一方で、札幌市内企業における女性従業員の割合は低く、約半数の企業で20%未満にとどまっています。
- ・また、約4割の企業が女性活躍の取組について「取り組んでいない」と回答しています。

札幌市内企業における女性従業員の割合



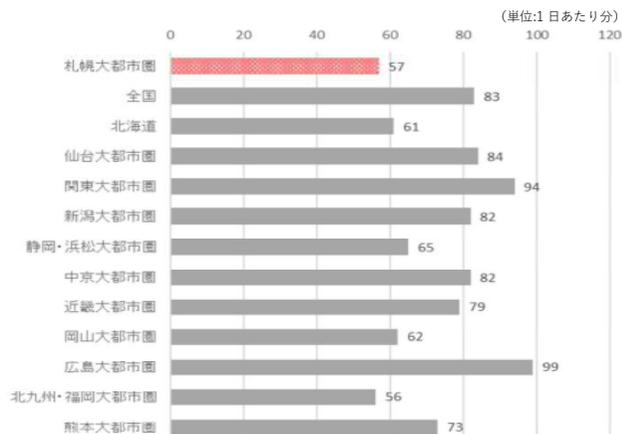
札幌市内企業における女性活躍に関する取組状況



札幌大都市圏の男性の育児・家事関連時間は少ない

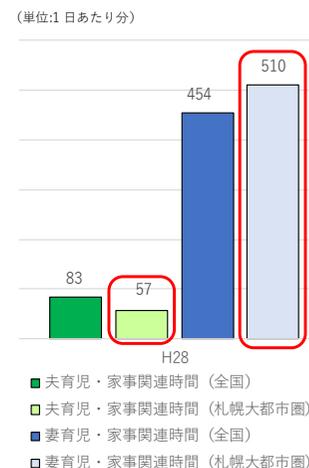
- ・札幌大都市圏※における男性の家事・育児関連時間は全国よりも少なく、11大都市圏中でも2番めに少ない状況です。
- ・一方、札幌大都市圏の女性の家事・育児関連時間は510分と全国よりも多くなっています。（※札幌大都市圏：札幌市、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、余市町、赤井川村、北村、栗沢町、南幌町、長沼町、栗山町）。

各大都市圏・全国における6歳未満の子を持つ夫の育児・家事関連時間



出典：平成28年度社会生活基本調査

札幌大都市圏・全国における6歳未満の子を持つ妻・夫の育児・家事関連時間

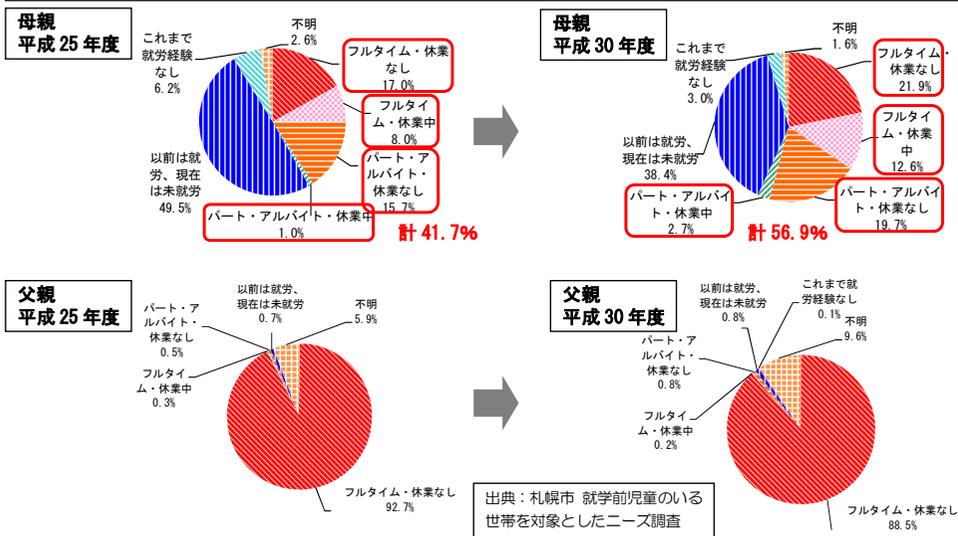


出典：平成28年度社会生活基本調査

子育て中の女性の就労は増加

札幌市において、**就学前児童を持つ母親で働いている人の割合は計41.7%（平成25年度）から計56.9%（平成30年度）に増加しています。**

就学前児童を持つ母親／父親の就労状況



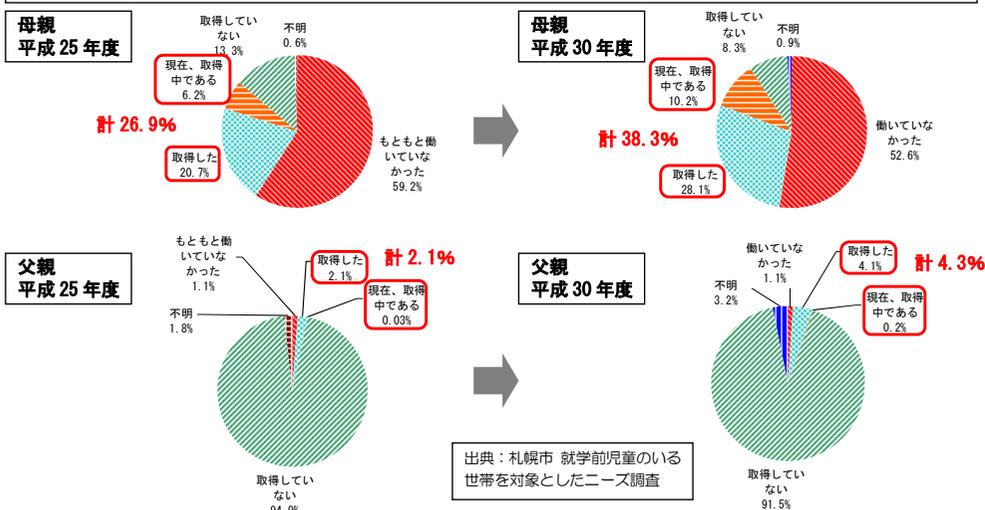
出典：札幌市 就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査

育児休業取得者は増加

札幌市において、**就学前児童を持つ母親で育児休業を取得した人の割合は計26.9%（平成25年度調査）から計38.3%（平成30年度調査）に増加しています。**

父親についても、割合としては小さいですが、計2.1%から計4.3%に増加しています。

就学前児童を持つ母親／父親の育児休業取得状況



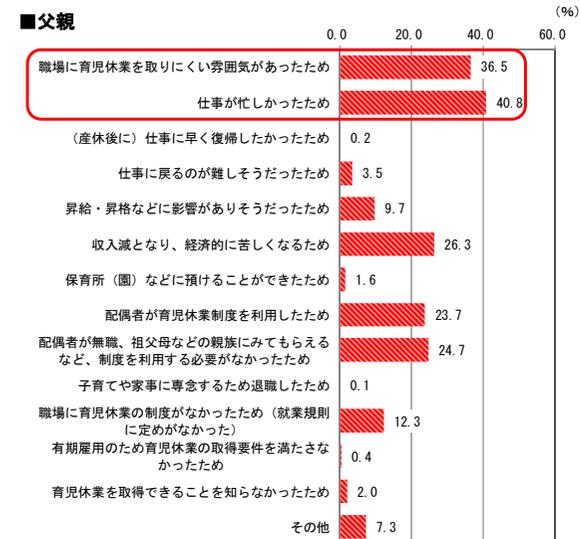
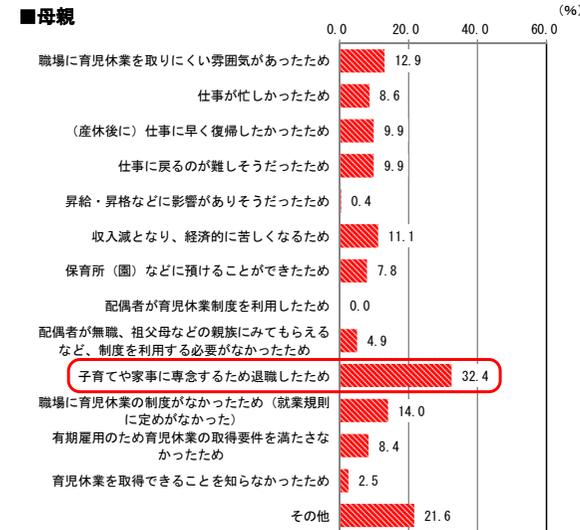
出典：札幌市 就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査

女性が育児休業を取らなかった最大の理由は「退職したため」

札幌市において、**就学前児童を持つ母親が育児休業を取らなかった理由として「子育てや家事に専念するため退職したため」が最も多く挙げられています。**

男性が育児休業を取らなかった理由としては「仕事が忙しかったため」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったため」が多く挙げられました。

育児休業を取得しなかった理由



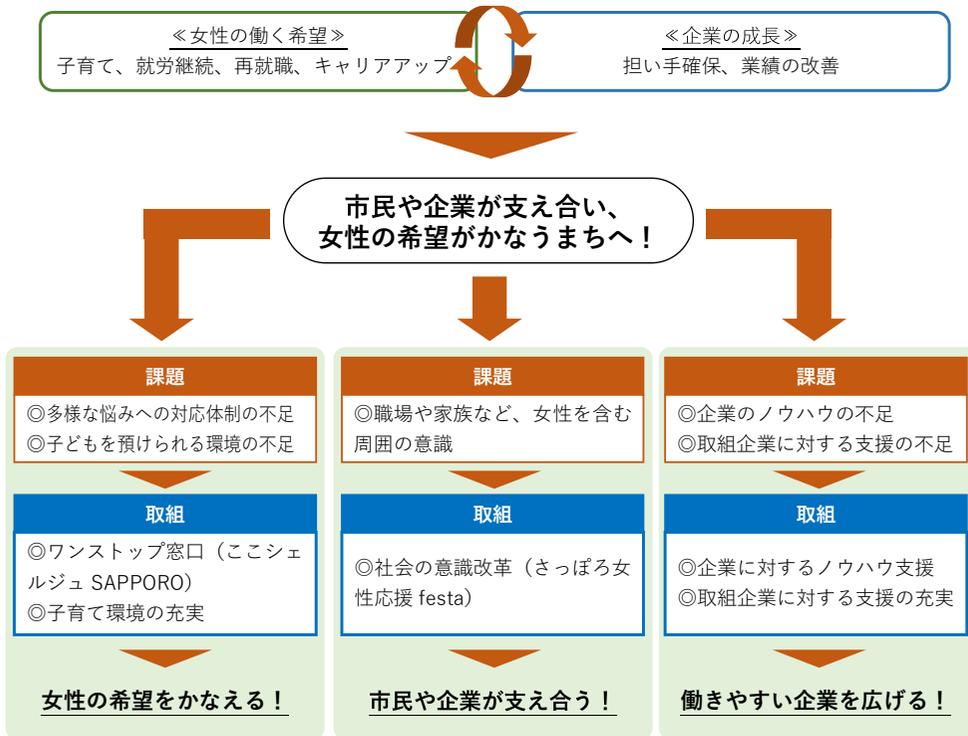
出典：札幌市 就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査

「さっぽろ女性応援会議」での検討

女性の活躍を推進する官民の効果的な取組を検討

- 札幌市では平成 29 年度に、女性経営者や女性の活躍を支える企業・団体など、様々な立場のキーパーソンが参加する「さっぽろ女性応援会議」を設置して、札幌市の実情を踏まえ、必要な取組を議論しました。
- 「さっぽろ女性応援会議」での議論などを踏まえ、札幌市の課題を整理し、平成 30 年度の取り組み内容をまとめました。

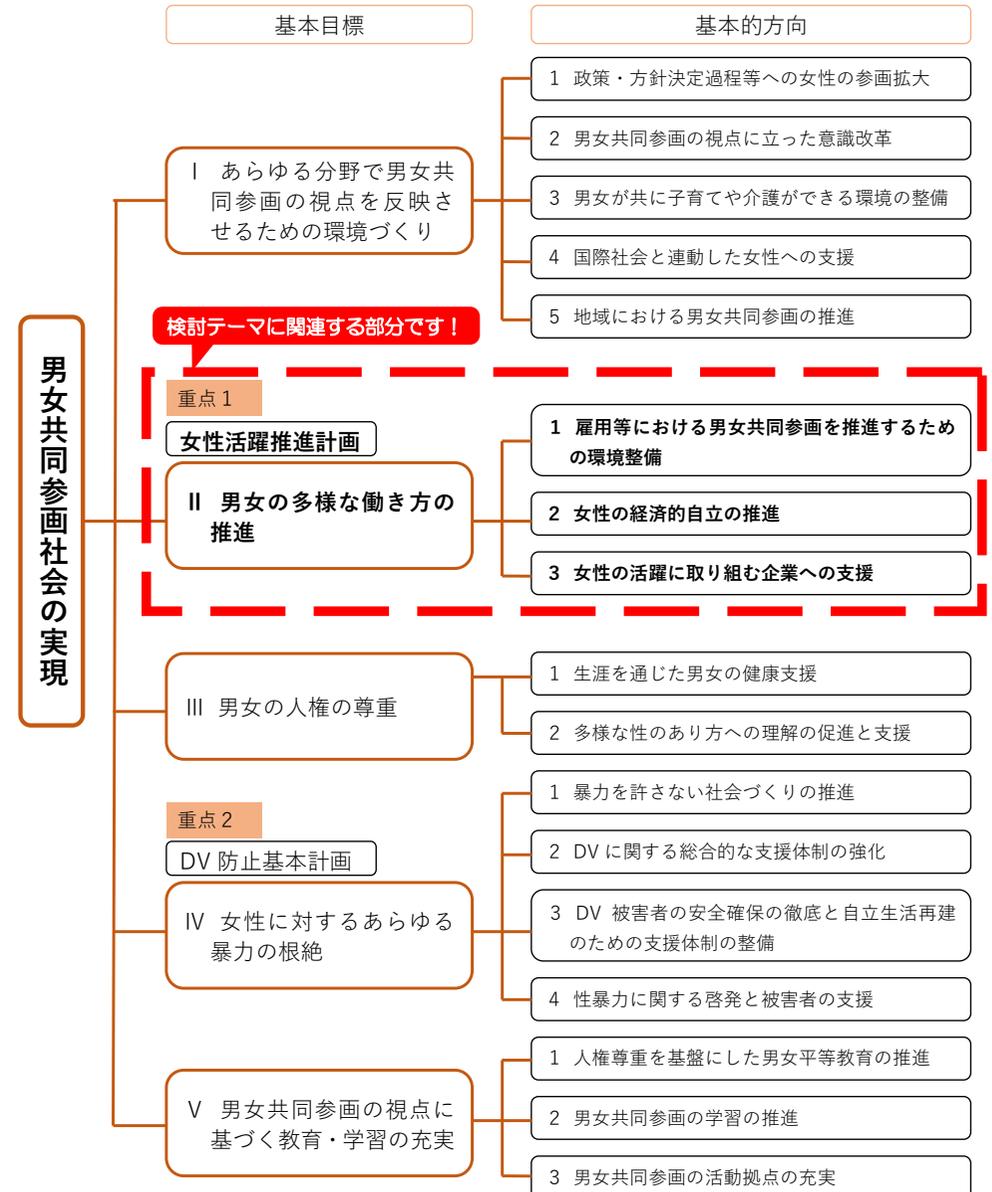
女性が様々な場面で能力を発揮し、地域が活性化する好循環を創出！



札幌市の行政計画における「女性の活躍」の位置づけ

「第4次男女共同参画さっぽろプラン」の計画体系

- 札幌市では、「さっぽろ女性応援会議」での検討内容も取り入れて、平成 30 年 4 月に行政計画「第4次男女共同参画さっぽろプラン」を策定しました。その一部を「女性活躍推進計画」と位置づけて、女性の活躍に関する取組を進めています。



参考としてお示ししました。ワークショップではこれらの事業も頭に置きつつ、ご意見をいただきたいと思います！

(参考)「女性活躍推進計画」に位置付けられている、札幌市が実施する主な事業

雇用等における男女共同参画を推進するための環境整備に関する事業

仕事と暮らしのライフプラン支援事業	・若者（高校・大学・新入社員等）を対象に、働き方、結婚、出産、子育て等に理解を深めることを目的に、ライフプランセミナー（年間延べ1,000名程度受講）の実施、ウェブサイト「COME ON! ミライ」にて情報発信を実施しています。 ・仕事と子育ての両立の推進に向け、市の認証制度である「ワーク・ライフ・バランス plus」認証制度を取得する企業を対象に、育児休業等を取得する社員が出た企業に対する助成金を支給しています。（平成30年度20社に支給）
私立保育所等の整備	多様化する保育ニーズに応えるため、認可保育所等の整備や既存幼稚園の認定こども園化等による受け入れ枠の拡大を進めています。なお、平成30年度は、保育所等の定員を1,473人拡大しています。（平成30年度施設数：保育所254、認定こども園82、幼稚園73、小規模保育107、家庭的保育10）
一時預かり等保育サービスの提供	子育てをしながら安心して働くことができる環境の整備に向け、乳幼児の一時預かり、延長保育、休日保育、夜間保育を行う保育所、幼稚園、認定こども園の増加に取り組んでいます。（平成30年度延長保育実施数389、一時預かり実施数254、休日保育9、夜間保育3）
留守家庭児童対策事業の促進	放課後帰宅しても保護者が不在の小学生を対象にした放課後児童クラブを児童会館・ミニ児童会館（小学校内に設置）にて開設しているほか、小学校と児童会館の併設（新型児童会館の整備）や、民間団体が主体となる「民間児童育成会」への支援を通して、放課後の遊びや生活の場の確保に努めています。（平成30年度施設数：児童会館107、ミニ児童会館93、民間児童育成会43）

女性の経済的自立の推進に関する事業

ひとり親家庭就業支援センター事業の充実	ひとり親家庭等の就労による自立促進のため、就業相談や資格取得講習会の開催、就業情報の提供から職業紹介に至る一貫した就業支援サービスを実施しているほか、合同就職説明会を実施しています。（平成30年度就業相談6,318件、就業実績25件、説明会参加者211人）
ファミリー・サポート・センター事業	子育ての支援を受けたい人（依頼会員）と援助したい人（提供会員）が会員組織を作り、地域や会員相互で子育て家庭を支援する仕組みとして、日常的な預かりを行う「さっぽろ子育てサポートセンター」と、緊急時や病児・病後児預かりを行う「こども緊急サポートネットワーク」を実施しています。令和元年10月より、病後児デイサービス事業を含め、全区役所で事前利用登録手続きが一元化されます。（平成30年度提供会員数合計900人）
テレワーク・業務管理システムの普及促進	女性をはじめとする市民の有業率向上や働きやすい労働環境の整備を促進させるため、中小企業等がテレワークや業務管理システムを導入する際の費用の補助を行っています。
女性の多様な働き方支援窓口運営事業	働きたいが何から始めていいのかわからない子育て女性を対象に、札幌駅直結の札幌エルプラザに「ここシェルジュ SAPPORO」を開設、仕事と保育の相談を一体的に行うなど働き始めるにあたっての不安解消のお手伝いをします。プランク解消のための職場体験や、仕事と家庭の両立に役立つセミナーも行っていきます。

女性の経済的自立の推進に関する事業（続き）

働く女性のためのキャリア支援事業「コワーキングスペース」	起業を目指す女性や起業して間もない女性の働く場、交流する場として、男女共同参画センター（札幌エルプラザ内）に女性向けコワーキングスペース（共働スペース）「リラコワ」設置しています。コーディネーターを配置して、ロールモデルとの出会いを促進するほか、利用者同士の交流を促し、起業を含めた女性の多様な活動を支援しています。
女性の起業に対する支援	女性起業家や起業を志望する女性を対象に、札幌中小企業支援センターに女性中小企業診断士による起業や経営に関する相談窓口を開設しています。また、人脈形成や悩みの共有等を目的とした女性起業家交流会を実施しています。

女性の活躍に取り組む企業への支援に関する事業

さっぽろ女性活躍・働き方改革応援事業	女性に限らず男性も含めた幅広い市民が、仕事や子育て、地域活動等の現状や課題について学び、意見交換するほか、就職前の学生などが市内企業の働く環境や実態を知り、多様なライフプランを学べる場を提供することを目的として、官民協働のフォーラム「さっぽろ女性応援 festa」を開催しています。また、学生や若手社員、子育て世代など、若年層を対象に、女性活躍などに関する情報提供を通じて、各世代が抱える仕事の悩みやライフステージの変化に対する不安などを和らげることを目的とする「SAPPORO ライフデザインカフェ」を開催しています。
女性社員の活躍応援事業	女性が出産後も働き続けることができる職場環境づくりへの意識を高めるため、企業の人事担当者や社員向けのセミナーと出前講座を行っています。また、市内中小企業10社に働き方改革の専門家を派遣、半年間のコンサルティング支援の過程を事例集にまとめ波及させる「女性活躍推進に向けた働き方改革ロールモデルづくり」を行っています。
男女が共に活躍できる職場づくり応援事業	女性活躍推進等に取り組む企業の認証としてワーク・ライフ・バランス plus 企業認証制度を実施し、平成30年度末時点で328件を認証しています（ステップ1：154件、ステップ2：62件、ステップ3：112件）。要件を満たす認証企業には、インセンティブとして、認証マークの使用、札幌市との契約上の優遇、育児休業等助成金の支給、融資制度を設けています。また、ワーク・ライフ・バランスと女性活躍の推進に取り組む企業に対し、無料で推進アドバイザーを派遣しています。